

日墨研修レポート 2月

加藤 梨乃

ベラクルス

メキシコ湾に面した常夏の街、ベラクルス。メ



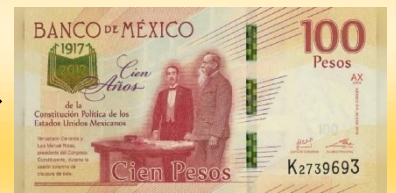
キシコシティからバスで5時間ほどのところにあります。からっとした気温が特徴なメキシコシティに対し、ベラクルスは湿気が多くまるで日本の夏のよう。ベラクルスはコーヒー豆の原産地として有名で、酸味や苦みが少なく、ブラックコーヒーが苦手な私でも飲みやすい！もちろん観光名所も盛りだくさん。El Tajin という遺跡ではマヤ文明によって作られたピラミッドや、伝統的な競技 Pelota(ペロータ)が行われていたであろう場所も残されています。他にもハラパ人類博物館や、2月のカーニバルの行進も有名です。メキシコ観光省に認定された Pueblo Magico(魅惑的な街)という場所もベラクルスには存在し、私が今まで観光してきた中でもベラクルスはおすすめできる場所の一つと言えます。

新しい紙幣発行!!

1月が一番寒いとされるメキシコシティの気温を乗り越え、まだまだ朝晩の冷えはあるものの少しずつ春を感じ始めてきました。先日家の近くのコンビニに寄り、お釣りで100ペソを渡されたのですが、何だかいつもの100ペソと違うような…。ホームステイ先の家族に聞いても初めて見たと、メキシコ人も知らない100ペソを幸運にも入手!!ただその紙幣を読むと、その秘密が明らかになりました。



(2017年以前に発行された紙幣)



(2017年以降に発行された紙幣)

今から遡ること100年前、メキシコ革命後の1917年に現在の現行憲法が公布されました。この新しい紙幣はその憲法公布からちょうど100年経ったことを記念して発行されたものだったのです。アステカ帝国の基盤を築いたとされる Nezahualcoyotl(ネツァウアコヨトル)からケレタロ州で新憲法が公布された時の様子が変わっているのが分かるかと思います。

語学学校での生活

2月の下旬で3セメスター目が終了するのですが、セメスター終わりの試験が近づくと月日の早さを感じます。普通であれば自分の語学力にあったスペイン語のレベルの文法の授業は一つしか取らないのですが、今回のセメスターでは私は2つのレベルの文法の授業を受講しました。その理由としては、私は元々語学学校に入ったときのスペイン語のレベルが低く、早く語学力を向上されたいと思ったこと、そしてこの日墨研修計画が定めている一つの条

件として、その文法の授業の intermedio2(中級2)のクラスが終われば別の機関へ移ることが可能、つまりインターンシップなど自分ができることの幅が広がるため、このような手段を選びました。この手段にはデメリットもあり、1つの文法の授業が3時間あるため、一気に2つを受講してしまうと他の文化、歴史の授業が時間割的に受講困難なこと、そして奨学金で賄われるのは一つの文法の授業のみなため、もう一つは自分で払わなければいけないこと(4万2000円ほど)これらがデメリットでした。ただ私にとってはメリットな部分が多く、例えばその2つのクラスで扱われる文法の内容が接続法メインで同時に基礎と応用を学べたこと、無事にどちらも合格できれば、留学の最後に語学学校から別の機関に変えるかどうかの選択肢を持つことが可能になることなどがメリットとして挙げられます。2つの文法の授業を同時に受講するのはかなり稀ですが、語学学校での一つの過ごし方として参考になればと思います。